

大会特別規則

1 試合について

- (1) 試合は6回戦までとし、1時間30分を超えたら新しいイニングに入らない。
ただし同点の場合は(3)のタイブレーク方式で勝敗を決する。
 - (2) コールドゲーム
 - a 暗黒降雨のコールドゲームは5回(4回1/2)を終了すれば試合は成立する。
 - b 得点差のコールドゲームは、3回(2回1/2)以降10点差、または5回(4回1/2)以降7点差とする。但し決勝戦は得点差によるコールドゲームを適用しない。
 - (3) タイブレーク方式
6回終了時または1時間30分を超えて同点の時は直ちにタイブレーク方式により勝敗を決する。継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁走者として無死一・二塁の状態投手の投球制限を遵守の上、勝敗を決する。その際、選手の交代は認められるが、試合から退いた者は以後その試合には出場できない。なお一回で勝敗が決しない時は再び継続打順でもう一回行う。二回行っても勝敗を決することができなかった場合は(4)の抽選方法によって勝敗を決する。
 - (4) タイブレークで勝敗が決まらない場合の抽選方法
試合終了時に出場していた両チームの選手が守備位置の順に終了あいさつの状態に整列する。○印、×印を記した抽選用紙をそれぞれ9枚ずつ用意し1枚ずつ封筒に入れる。球審が18枚の抽選用紙の入った封筒を持ち、先攻チームの選手より交互に1人ずつ引かせる。両チーム監督立会いのもと同時に開封し集計する。○印の多いチームを抽選勝ちとする。
 - (5) 特別継続試合
暗黒降雨により試合が成立しなかった場合、および同点で勝敗が決していない場合は、打ち切りになったところから特別継続試合として次の日の第1試合に行く。但し、出場選手や打撃順は試合が中断された時と全く同一でなければならない。
 - (6) 投手の投球数制限
投手の投球数については、野球肩・野球肘の障害防止を考慮し、1日70球までとする。但し試合中に70球に達した場合、その打者が打撃を完了するまで、またはそのイニングが終了するまでは継続して投球することができる。なお投球数を数えるにあたっては、実際に打者に投じた球数をカウントするものとする。
 - (7) 故意四球の申告制
守備側チームの監督が、打者を故意四球とする意思を球審に示した時、打者には一塁が与えられる。この時には故意四球(いわゆる申告敬遠)が記録される。
 - (8) 指名打者ルール
チームは全日本軟式野球連盟競技者必携の記載に従い、投手に代わって指名打者を指名することができる。但し二刀流選手の規定は採用しない。
 - (9) 投手の12秒及び20秒ルールの取り扱いについて
本大会では採用しないが、投手は速やかに投球するよう努めること。
- 2 抗議のできる者は、当該プレイヤー・監督とする。

- 3 守備側からのタイムで試合が停止された場合は、その間投手は捕手を相手に投球練習をしてはならない。
- 4 足を高く上げてスライディングすることは、危険防止のため禁ずることとし、現実にこれが妨害になったと審判が認めた場合は走者をアウトとする。
- 5 空タッチを禁ずることとし、現実に走者が進塁しようとしている時に野手が空タッチをして走者の妨害（よろめいたり、著しく速度が鈍った場合）となったと審判員が認めた時は、オブストラクション（走塁妨害）を適用する。
- 6 好ましくない野次に対しては、審判員または本部役員がこれを注意し、この注意が再度に及ぶときは退場処分とする。
- 7 試合のスピード化について

『試合は、スピーディーに行い無駄な時間を省くこと』

- (1) 投手の準備投球数について
1回目と投手交代時は7球以内とするが、2回目以降の準備投球は3球までとする。
- (2) 打者について
打者は、投球の終了ごとにいちいちバッターボックスをはずすことは許されない。バッターボックス内で、ベンチからのサインを見ること。
- (3) 内野手の転送球について
試合中、内野手間で転送球は認めない。打者が打者席に入る前までに投手に返球する。また歩いて投手の方へ近づかないこと。
- (4) タイムについて
 - a タイムはプレイヤー（監督・コーチを含む）の要求したときでなく、審判員の認めたときである（原則として1分間以内）。
 - b 試合中に帽子、スパイクの紐の締め直しのタイムは認められない。
 - c 守備側のタイムの回数制限
監督またはコーチ等が1試合に投手のもとに行ける回数は3回以内とし、延長戦（タイブレーク方式を含む）は1イニングに1回行くことができる。但し投手交代の場合は回数に含まない。なお、野球規則 5.10 l(2)は適用しない。すなわち、1イニングに2回以上投手のもとに行っても投手は自動的に交代とならない。
 - d 攻撃側のタイムの回数制限
攻撃側のタイムは1試合に3回以内とする。但し延長戦（タイブレークを含む）は1イニングに1回とする。
- 8 球場の内外を問わずマナーに留意し、選手として立派な態度をとること。またベンチ内の大人がいかなる状況であっても選手を委縮させるような言動を禁止する。
- 9 打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けた時には、その程度を問わず即時にベンチに下げ臨時代走の処置を行う。また塁上の走者が負傷した場合で一時的に走者を代えないと試合中断が長引くと審判員が判断した時は、臨時代走の処置を行うことができる。
- 10 その他これに明文のない事項は、「公認野球規則」および「全日本軟式野球連盟競技者必携」に記載されている規則を準用する。